

# 一 刀 領 談

本紙客員論説委員 下條正男



しもじょう・まさお 長野出身。国学院大学院博士課程修了。1999年から拓殖大教授を務め、昨年3月末で退官。現在は本

紙客員論説委員のほか、島根県立大と東海大の客員教授。島根県の第5期竹島問題研究会の座長を務める竹島研究の第一人者。71歳。

ロシア軍に侵攻されたウクライナでは、ハリコフやマリウポリなどの都市を中心に惨劇が続いている。この状況は今から77年前、「日ソ不可侵条約」を一方向的に破り南満洲・南樺太・千島列島・北方領土に侵攻したソ連の蛮行と重なる。

中でも千島列島と北方領土は、日本がポツダム宣言を受諾した後に略取され、千島列島東端の占守島を守っていた日本兵は、南満洲と南樺太にいた将兵と同様、シベリアに抑留された。

北方領土は1855年2月7日、江戸幕府がロシアと結んだ「日露和親条約」によって日本領となっていた。この時ロシアが極東に進出したのは、53年に始まるクリミア戦争で劣勢に立たされ、活路を東方に見出すとしていたからだ。そこでロシアは清朝と「璦琿条約」を結び、60年の「北京条約」では清朝の領土であった外満洲に沿海州を設置して、海辺の小さな村を意味する海參崴にウラジオストクの建設を始めた。ウラジオストクの意味は「東方を支配せよ」で、文字通り、その後の南下政策の前進基地となった。

## ■南下の忠告一蹴

82年、ロシアの南下政策を警戒した清朝の外交官の黄遵憲は、日本を訪れていた修信使の金宏集に『朝鮮策略』を手交し、ロシアの南下を阻止するには朝鮮

## ロシアの悪癖



ロシア軍の攻撃を受けたウクライナ南東部マリウポリ市街地。3月23日、ウクライナの準軍事組織「アゾフ大隊」が空撮映像を通信アプリに投稿した

# 中立地帯求め領土分断

が清朝と日本と手を組み、米国と連携すべきだとした。

だが朝鮮の知識人は「日本は我国百世の讐なり」として、日本との連携を拒んだ。朝鮮の知識人たちは、次にロシアが狙うのは朝鮮だとした黄遵憲の忠告を、自らの「歴史認識」で一蹴したのである。

その朝鮮では、王妃の閔妃とその一族が国政を壟断し、売官売職をしたことで地方官による収奪が激しくなり、各地で民乱（東学党の乱）が頻発した。日本政府はその朝鮮に対し、苛政を改め、施政の改善を提言したが、聞く耳を持たなかった。

東学党の乱の鎮圧に失敗した朝鮮は、宗主国の清朝に援兵を求めたため、日本

時、シベリア鉄道の敷設は日本には脅威であった。大量の武器と兵力を一挙に輸送できるからだ。そこで日本政府は、シベリア鉄道の開通前に自衛の戦いをロシアに挑み、辛勝した。当時、政治学者の吉野作造は「露国の敗北は世界平和の基世」としたが、現在のロシアの境遇はこれに近いものがある。

日露戦争の結果、日本は大韓帝国を保護国として施政の改善に着手し、その財政再建策を実施して、朝鮮半島の近代化の基礎を築くのである。

しかし、ロシアの性癖はソ連となっても変わらなかつた。大東亜戦争（太平洋戦争）末期、満洲・樺太・千島列島・北方領土に侵攻し、50年6月には北朝鮮軍とともに南侵して、朝鮮半島を北緯38度線で分断する張本人となつたからだ。

だが韓国では、朝鮮半島の分断は日本に責任があるとしている。韓国では「日本は我国百世の讐なり」とする歴史認識で、過去を解釈するからである。

そこに今、中国が台頭して、伝統的な覇権国家の相を示している。日本を巡る地政学的状況は、国家としての日本の自立を考える時に至っている。

## ■敗北は平和の基

1904年、ロシアはモスクワとウラジオストクを結ぶシベリア鉄道を開通させ、それと前後して、朝鮮半島の北緯39度線以北を中立地帯とするよう日本政府に求めてきた。今のロシアがウクライナに求めているのも中立地帯である。その